

2015 年 7 月

プレスリリース

展覧会

猪熊弦一郎展 みんなで伝える、好きになる

2015 年 10 月 3 日（土）－ 12 月 6 日（日） 会期中無休

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館



猪熊弦一郎《飛ぶ日のよろこび》1993 年

©公益財団法人ミモカ美術振興財団

お問い合わせ及び資料のご請求先：
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団
展覧会担当=松村円、平山優子
〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1
tel. 0877-24-7755 / fax. 0877-24-7766
<https://www.mimoca.org/ja/press/>
E-mail press@mimoca.org

猪熊弦一郎展 みんなで伝える、好きになる

【概要】

展覧会名：猪熊弦一郎展 みんなで伝える、好きになる

会期：2015 年 10 月 3 日（土）— 2015 年 12 月 6 日（日）会期中無休

時間：10：00-18：00（入館は 17：30 まで）

会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

主催：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

観覧料：一般 950 円（760 円）、大学生 650 円（520 円）、高校生以下または 18 歳未満・丸亀市在住の 65 歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

- ・ 同時開催常設展「猪熊弦一郎展（仮称）」観覧料を含む
- ・ （ ）内は前売り及び 20 名以上の団体料金
- ・ 11 月 23 日（月・祝）は開館記念日のため観覧無料

前売券販売場所：

〔丸亀〕あーとらんどギャラリー（0877-24-0927）、オークラホテル丸亀（23-2222）

おみやげSHOP ミュー（22-2400）、きままや（22-9361）

【展覧会趣旨】

猪熊弦一郎（1902-93）は、幼いころから絵を描くことが大好きで、90 歳で亡くなる直前まで意欲的に数多くの作品を描き続けました。それらの多くは、好奇心旺盛で、どんな時でも心から楽しもうとした猪熊の性格を反映してか、見る人を驚かせ、またにっこりさせる明るさに満ちています。本展では、子供のころのスケッチから晩年の大作までを展示し、猪熊絵画の全貌をご覧ください。あわせて、たくさんの方からお寄せいただいた、猪熊作品への愛情あふれる感想や、とっておきのエピソードを会場にて公開。思わず感心する作品の見方や知られざる猪熊弦一郎像をみんなで分かち合い、いっそう猪熊作品を好きになってみませんか。

【トピックス】

1. 幼少期から晩年までの作品が大集合

小学生のころに描いたスケッチから晩年の大作まで、猪熊の全画業が一望のもとに見渡せます。当館の建設当時、展示室を見た猪熊がこの空間に合うようにと描き、1991 年の開館記念展でお披露目された高さ約 4 メートルの巨大な作品 2 点が同時に展示される貴重な機会でもあります。

2. みんなの思いや記憶が案内役

約 1 年前から、猪熊の作品についての感想や猪熊に会ったときの記憶など、全国のみなさんからたくさんのエピソードを教えてもらってきました。展覧会ではこれらを大公開。猪熊弦一郎の作品をもっと好きになるための案内役になってくれます。また、会場には感想などをお書きいただくコーナーを設置。事前に寄せられたエピソードだけではなく、会期中の声も続々と加わります。みんなで猪熊とその作品の素敵なところを伝えあうことで、もっともっと作品を楽しんでいただけます。

3. 猪熊弦一郎もお出迎え

お客さまからの声だけでなく、猪熊弦一郎自身の言葉や、猪熊が被写体または本人が撮影した写真などもご覧いただけます。猪熊の人柄や生活風景を知ること、いっそう作品の魅力が増してきます。

【関連プログラム】

・キュレーターズ・トーク

本展担当キュレーター（松村円、平山優子）が展覧会をご案内します。

日時：会期中の日曜日 14：00-（他の関連プログラム開催時を除きます）

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です）

申込：不要（1 階受付前にお集りください）

・猪熊おしゃべりテーブル

本展担当キュレーターが展示室にてみなさまをお待ちしています。猪熊や作品について、あれこれお話しませんか。疑問質問も大歓迎です、お気軽にどうぞ。

日時：10 月 19 日（月）、20 日（火）、11 月 11 日（水） いずれも 14：00-17：30

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です）

申込：不要（展示室にてお気軽にお声がけください）

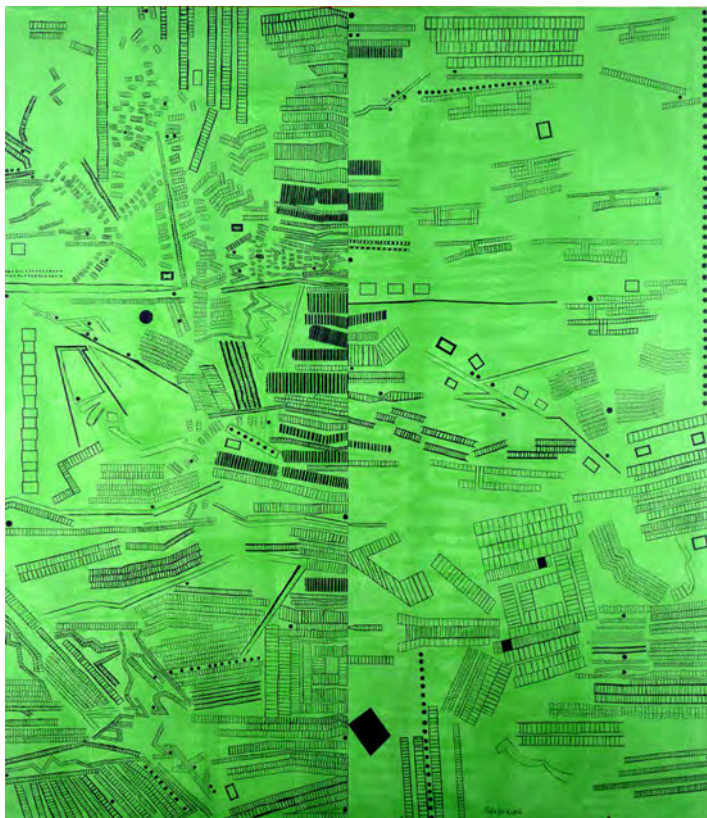
※この他にも関連プログラムを予定しています。決まり次第、当館ウェブサイトにてお知らせします。<http://mimoca.org>.

【参考図版】



《自画像》1925 年

©公益財団法人ミモカ美術振興財団



《The City (Green No.1)》

1968 年

©公益財団法人ミモカ美術振興財団



《宇宙都市休日》1991 年

©公益財団法人ミモカ美術振興財団



《飛ぶ日のよろこび》1993 年

©公益財団法人ミモカ美術振興財団

※出品作品例の広報用画像をご希望の際は、データにてお送りいたしますので、当館ウェブ上のプレス用ページ (<http://www.mimoca.org/ja/press/>) よりお申し込みください。なお、著作権の都合上、画像をご掲載の際は必ずクレジット等のご記載もあわせてお願い申し上げます。

【作家紹介】

猪熊弦一郎

【略歴】

- 1902 香川県高松市に生まれる。絵が好きでしようがなく、小学校では図画の授業で先生の代わりをするほど上手だった。
- 1922 発明癖があり大発明家への夢ももっていたが、やはり画家になろうと決心し、東京美術学校（現東京藝術大学）西洋画科に入学。3 年次から藤島武二に学ぶ。
- 1926 帝国美術院第 7 回美術展覧会（帝展）初入選。1929年、第10 回帝展で特選。1933年にも第14回帝展で2 度目の特選となり、以後は帝展無鑑査となる。
- 1936 小磯良平など、志を同じくする仲間たちと新制作派協会（現新制作協会）結成。
- 1938 念願のパリに留学。到着した夜は感激のあまり涙を流す。滞欧中、イタリア、スイスなどを旅行する。またニースでマティスに自作を見てもらうほかパリの画廊で当時の巨匠たちの実作に多く触れて刺激を受け、さまざまな描き方を試みる。
- 1940 帰国。
- 1944 神奈川県津久井郡吉野町（現神奈川県相模原市緑区）に猫2匹をつれて疎開する。
- 1946 田園調布に戻る。人物や猫、鳥などを多く描く。画面の均整をとるために人物や動物などを厳しく単純化し、現実とは異なる色彩を用いて描く。国際展にしばしば出品されるなど画業で高い評価を得る一方、戦後の何もないときを楽しく過ごそうと、友人たちとダンスをしたりバンドを組んだりした。
- 1950 三越の包装紙「華ひらく」をデザインする。以後、現在まで使われている。
- 1955 再度、パリへの留学を決意し、アメリカ経由で出発する。途中で立ち寄ったニューヨークの熱気に魅力を感じ、以後、約20年間ニューヨークで活動を続ける。作品から具象の面影が消え、抽象画を描く。ニューヨークの猪熊邸には、イサム・ノグチなどの芸術家のほかアメリカに進出する日本企業の関係者など多くの人が訪れ、猪熊は民間大使と呼ばれた。
- 1973 一時帰国。ニューヨークへ戻る際に開かれた送別会の席上、脳血栓で倒れる。
- 1975 ニューヨークでの制作が困難になり、アトリエを閉める。以後、冬の間はハワイで、その他の季節を東京で制作する。ハワイの太陽と自然に接し、色彩は明るく豊かになる。形は四角と丸の組み合わせに始まり、次第に多様な形が描かれるようになる。
- 1988 最愛の文子夫人が亡くなる。顔を丸の中に面白い形を組み合わせたものと捉え、顔の連作を始める。すぐに動物やその他の形も加わり、抽象と具象の枠組みを意識せずに描く。
- 1991 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館開館。「常に新しいものを紹介する実験的な場所であってほしい」（「城とうちわの街に「現代美術館」」『FOCUS』1991年12月6日号）
- 1993 逝去 享年90歳。

【展覧会のお知らせ】

[同時開催常設展]

猪熊弦一郎展（仮称）

2015 年 10 月 3 日（土）— 2015 年 12 月 13 日（日）

※ 同時開催企画展と会期の終了日が異なります。

[次回開催企画展]

愛すべき世界（仮称）

2015 年 12 月 20 日（日）— 2016 年 3 月 27 日（日）

（2015 年 12 月 25 日（金）— 31 日（木）は年末休館）